

巻頭言

会長就任にあたり
新たな旅立ち・新たななる挑戦

高橋 伸治
平野 泰宏

4
5

特集 1

コロナ後の社会経済と大学経営

内田 茂男

6

特集 2

新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する本学の取り組み
（秋学期の面接授業実施と2021年度に向けて）

大場 克美

12

特集 3

遠隔（オンライン）授業について
（オンライン反転授業の試み）

権 永詞

26

特集 4

コロナ禍における学生募集、就職支援活動について

出水 淳

33

学生活動紹介

コロナ禍での学生募集の記録
コロナニモマケズ、冬のサムサニモマケナイ、君の未来がコソリアル！

川瀬 功

39

ゼミ紹介

新しい学生としての在り方や試み「WADACHI」
マーケティング研究を通じて得る二つの能力

島貫 朱生

45

■ ニュース・イベント

千葉商科大学次期学長に現職の原科幸彦学長を再任／ほか

橋本 隆子

47

■ 国際センターニュース

千葉学園の国際化戦略

橋本 隆子

53

■ 地域連携推進センターニュース

2021年度CUC市民活動サポートプログラム（履修証明プログラム）のご案内

橋本 隆子

56

さとのば大学と国内研修事業に関する包括協定を締結
大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム
株式会社市進ホールディングスと包括協定を締結

■ The University DINING 1ポード

ONLINE JAZZ LIVEを開催

SDGsに関する取り組み

ダイニングルールをビジュアル化した啓発活動を実施

60

コラム

随筆	ライブラリーニュース 図書館活用塾／図書館ツアー開催について SONFMから読者のみなさまへ テレビと掃除機で省エネ／冬の電気代を抑える省エネ方法 文化団体・体育会所属各部等の活動状況 チヨークのおい 私の散歩の楽しみ方	山川 大輔 横山 真弘	69 68 66 64 62
教育後援会活動	教育後援会活動報告 保護者寄稿 輝く未来へ 付属高校から進学して 保護者会オンライン開催について	吉戸 ゆりこ 坂本 智子	71 75 74
活躍する卒業生	人生無駄なことはないもの 本部からの報告 支部からの報告 同期会からの報告 その他特定団体からの報告 同窓生寄稿 期間限定のマイナーな増毛山道を放浪 千葉商科大学とそろばん テレビ東京・開運なんでも鑑定団に 卒業生のお宿・お店紹介『ビジネスホテルにし那須』	上船津 賢祐 広報・ＩＴ委員会 金澤 敏勝 太田 敏幸 中川 誠一 関 幸次郎	81 77 93 91 84 98 94
同窓会活動			
CUC経営者会議	CUC経営者会議ニュース 学生の成長と大学の発展のために／CUC経営者会議における今後の活動／ ニューノーマルな時代を乗り越えるCUC経営者会議の新たな在り方	安藤 弘樹 加藤 弘樹	102 103 102
著書紹介	『アフリカ経済の真実―資源開発と紛争の論理』 著者・吉田敦	吉田 敦	105
▼第51期同窓会維持会費・華甲会費納入者覧	106		
▼同窓会支部事務局一覧	112		
▼編集後記	114		

会長就任にあたり

昨年末、同窓会初の書面総会により、勝田啓示前会長の後任として就任いたしました。同窓会会員の皆様、大学関係者の皆様のご支援、ご協力を賜り、本会発展のために精一杯務めさせていただきますので、よろしくお願ひ申し上げます。

昨春来、新型コロナウイルス感染症によって世界はさまざまな変化を余儀なくされ、同窓会におきましても、創立50周年という重大な年であったにも拘わらず、周年記念式典および祝賀会をはじめ、さまざまなイベントをやむを得ず中止といたしました。令和3年は、会員の皆様と連絡を取り合い、さまざまな知恵を出し合い、この難局を乗り切りたいと考えています。

コロナ禍は、私たちが「共同体」を失いつつある現実を、まざまざと見せつけてくれました。「三密を避ける」「人と人との接触を極力少なくする」「ステイホーム」など、さまざまな「自粛」という名目での禁止事項が強調される一方で、「私たちは、これからどうなるのか」というビジョンは、なかなか見えてきません。もしかしたら、このまま「人と接触しない生活」のほうがストレスが少ないのかもしれません。今の状況は、これまで気付かなかっ

高橋 伸治

● 千葉商科大学同窓会会長
(昭52商)



たことを学ぶ機会になっていきます。そのなかで、今まで見えていなかったことに気付かされた。という人は、けっこう多いのかもしれない。千葉商科大学でも教員、学生が一堂に集まっていたの授業はほとんどオンラインで授業をすることが多くなっています。この流れは世界的なもので、加速することはあっても無くなることはないと言われています。大学も新しいシステムに向かって大きく転換していくことでしょう。

同窓会の理念は、会則第三条にある「会員相互の交流と親睦を図り、組織及び会員の発展・充実並びに建学の精神に則った千葉商科大学の発展に寄与すること」となっています。しかし、コロナ禍で「新しい日常」が模索されています。日常とは、未来を予期できる状態を言うはずだったと考えます。これまでと同じ日々が続くと期待できるからこそ、人々は心安らかに暮らすことができず、しかし、それができない現実と直面しています。同窓会も「新しい日常」を意識し、常に新しい考え方で、日々、千葉商科大学と共に発展していく組織になるように、皆様と共に変革したいと願っています。

人生無駄なことはない

上船津賢祐

株式会社日本旅行アカウントサービス非常勤監査役
昭和51年 商経学部商学科卒業



昭和47年4月、山口県下関からブルートレイン「あさかぜ」に乘車し、大学生活の一步を踏み出しました。

今と違いネット検索することもできず下宿先を探すことが大変でしたので、今も残る「斯心寮」での寮生活を選びました。いざ入寮してみると、応援団も恐れるといわれる寮で、入寮の夜から先輩の怖さを知ることとなりました。服装は学ラン、先輩の言葉は絶対、と現在では考えられないような封建的な世界でしたが、結局4年間を寮

で過ごしたということは案外快適だったと懐かしく思い出します。

2年の時に、寮の先輩に誘われ大学祭常任委員会に入っていたいただき、その後3年間「瑞穂祭」の運営に携わりました。

大学祭のイベントでは、作家の井上ひさし先生に講演をお願いしましたが、スケジュールが合わず困っていました。そこで当時メディアに頻繁に出演していらした参

議院議員の木島則夫先生に白羽の矢を立て、伝手もないのに、大胆にも直接電話でアポを取り参議院議員会館に出向きました。初めて入る議員会館の入口では足が震えました。緊張しながらお願いする私の話を聞いて、快諾して頂いた時は安堵し、喜び勇んで市川に帰ったことが昨日のことに思い出されます。

卒業後は、山口トヨペット、国鉄、JR西日本、日本旅行、日旅産業、日本旅行アカウントサービスと転籍はしましたが、そのほとんどを会計の仕事に従事して参りました。

国鉄時代に拝命した広島鉄道管理局経理部会計課勤務を振り出しに私の会計マン人生が始まりました。この会計課でお世話になった上司から「商業高校、商科大学卒の経歴が、民営化を目指す国鉄で生きる」と言われたことが、財務会計や税務会計などを勉強し直すきっかけになりました。2年後国鉄本社に転勤し、民営化に向けた仕事ができただことは、この時の勉強が糧となったのだと思います。国鉄民営化に向けては、JR各社が設立当初利用する決算システムを作成する作業に従事できたこと

が苦しくも楽しい思い出です。

日本旅行在籍中には、石井さん(当時日本ビューホテル株式会社取締役)にひよんなことからご挨拶することとなりました。「会社のパーティーが浅草ビューホテルで開かれる」と妻に話したところ「それなら石井さんにご挨拶してきたら」とのこと。妻の友人のサークルの先輩が石井さんという遠い関係ではありましたが、ご縁ができました。またこの『きずな』に投稿されていた安藤さん(当時富士屋ホテル株式会社社長)にもご挨拶させていただきました。お目にかかりたいとお願いしたところ、ただ同窓だというだけで面識のない私のためにホテルで待っていてくださいました。

そんなご縁で、CUC経営者会議の創設メンバーにお声をかけていただき、現在も運営に参加させて頂いております。

他にも旅行業関連の関係者のなかに、千葉商科大学卒の皆様が多数おられ、後に(株)日旅産業(主に宿泊施設様向け商品を扱う商事会社)社長に就任した際にはいろいろご支援を頂き感謝しております。久しぶりの営業職に

就いて、大学卒業後に入社した山口トヨペット時代を思い出し、直ぐに結果が数字に現れる営業の仕事を楽しむことができました。

今になって感じることは、どの仕事も自分自身が頑張ることは当然ですが、その時々のご協力、ご指導がいただける人間関係を作り上げることが必要であるということです。私にとっては在学中の授業、大学祭などの自治会活動、寮生活から始まり、卒業後の同窓会などで広まった人脈が宝物となりました。

「ウサギの耳、トンボの目、アリの足」という言葉があります。ウサギの耳のような情報への敏感さやトンボの目のように複眼的な視点を持ち、アリの足のように現場を歩きその重要性を追求し、その上で信頼関係を築く大切さを実感した会社員人生でした。

間もなく、サラリーマン生活も終止符を打つこととなりますが、「人生に無駄なことは一つもない。骨折したお陰で魚の目が治り時間も費用も節約できた。」と前向き(っ)な妻と一緒にこれからの人生を楽しみたいと考えております。

かつて私は自社の社内報に娘の言葉を借りて「やってみる変わるから、やってみる出来るから。」という言葉を書きました。人生に無駄なことなど無いのです。先ずは行動を起こしましょう。

最後になりますが、千葉商科大学が100周年を目前、50周年を迎えた同窓会も、今後100周年を目指して飛躍していかれると信じております。